

神奈川県西部方言（秦野市）の語彙

—— 80 歳代・50 歳代の使用調査より ——

川 口 真 奈

1 はじめに

私は神奈川県秦野市で生まれ育ったが、神奈川県に方言があるという認識をこれまで持っていなかった。「方言」と聞くと、自身とは縁遠いものという認識が強くあった。

大学で日本語学関係の講義を通じて、方言の持つ地域ごとの特色や差異を学ぶとともに、神奈川県にも方言があることを知った。現在の神奈川県において、伝統的方言語彙はまだ生き残っているのか。一体どれほどの人が神奈川県にも方言があると認識しているのか、その方言に対する印象はどのようなものか、それらのことに強い関心を持つようになった。

例えば、今回調査にあたって参照した『秦野市史民俗調査報告 2 秦野地方のことば』（1982）には、当時から見て 30 数年前における秦野市の方言会話が紹介されていて、たいへん興味深い（1982 年刊行であるので、現在から見ればさらに 70 年程前になることから、およそ昭和 20～30 年頃になるか）。

今から 30 数年ほど前に逆のぼろうか、電車内などで女子高校生の間で交わされていた会話はこんな風であった。

『オラア、ユンベエヨウ、オマッチヘイッタケド、イナカッタンベエ、ダカラケエツテキタア』

『ソンド、ナンノヨウデ、キタァノヨウ』

とこのような調子で続いていったのである。【中略】市内のあちこちでも日常茶飯事につかわれていた言葉である。（秦野市 1982 p11）

【現代語訳（川口）：「わたし、きのうの夕方ネ、あなたの家（オマへのウチ）へ行っただけけど、いなかったでしょう？だから帰って来ちゃったノヨ。」「それで、なんの用事で、来たのヨ？」】

そこで卒業論文において、自分の出身地である秦野市、および、その周辺の神奈川県西部を中心に、神奈川県方言の使用状況・意識・印象などを調査し、神奈川県方言の実態を探ることを目的に調査研究を進めてみることにした。

調査後の整理過程で、神奈川県の方言語彙に関しては、方言資料によって方言語形の

意味や地域の記載が異なること、また、方言資料と今回の被調査者の回答とで語形や意味の相違が確認された。本稿では、特にそれらの差異に焦点を当て、秦野市を中心とした神奈川県西部方言語彙について報告していくこととしたい。

2 神奈川県方言語彙の実態調査

2.1 調査の概要

神奈川県の方言については、これまでも、次のような専門の研究者による辞典・方言集が編まれてきている。

- 日野資純・斎藤義七郎編（1965）『神奈川県方言辞典』
- 井上史雄〔ほか〕編（1995）『関東方言考』（1 関東一般・茨城県・栃木県、2 群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県、3 東京都）ゆまに書房—（日本列島方言叢書／井上史雄〔ほか〕編；5-7）
- 国立国語研究所（2003）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成〈第6巻〉東京・神奈川（国立国語研究所資料集）』
- 平山輝男監修、田中ゆかり（2015）『日本のことばシリーズ14 神奈川県のことば』明治書院
- 坂本薫（2020）『神奈川県の方言アクセント——小田原から横須賀まで』春風社
そのほか、横浜や綾瀬市の方言についての次のような一般向けの本もみられる。
- 伊川公司（2000）『ハマことば』神奈川新聞社
- 伊川公司（2005）『横浜・ハマことば辞典』暁印書館
- 山口尚子、おおよどながら（2015）『方言絵本 ほんとかあちゃん 神奈川県綾瀬市のことば』おおよど漫画制作所

今回、私が調査対象とした秦野市に関しては次の2つがある。

- 秦野市管理部市史編さん室編、岩田達治編著（1982）『秦野市史民俗調査報告2 秦野地方のことば』秦野市
- 神奈川県立歴史博物館編（2003-2007）『神奈川県民俗調査報告21-24 分類神奈川県方言辞典（I-IV）』神奈川県立歴史博物館

前者に収録されている「秦野市で使われる方言一覧表」において、800語を超える語彙が掲載されている。

今回の調査（卒業論文）では、サンプル調査と称し、本格的な調査を実行するための準備的サンプル調査として、神奈川県の方言から調査語彙を取捨選択し、上記「秦野市で使われる方言一覧表」の中から抽出した方言語彙について、少人数の方言話者に対して使用（意味・用法）、使用への認識などについて聞き取り、または各自に記載してもらう形での実態調査を行った。その際、『神奈川県民俗調査報告 分類神奈川県方言辞

典（Ⅰ～Ⅳ）』（2003-2007）（以下、『神奈川－報告』と略称する）も参照し、神奈川県内での分布とも照合して考察を行った。以下、本稿ではその中の聞き取り・アンケート調査から一部を抽出して、語彙の回答及び比較した資料との意味的差異について考察を行いたい。

2.2 調査の方法

『秦野市史民俗調査報告書2 秦野地方のことば』（1982）内の「秦野地方で使われることば一覧表」の語彙の中から調査語彙を選択した。今回の調査は紙面でのアンケート形式を基本としたため、感動詞などは除き、基本は名詞・動詞を尋ねる形をとっている。アンケート紙面で調査する語彙の選択基準としては、意味が現在も使用されていると考えられるもの、方言語彙としての特徴があるものなどの点を加味した。

以下に、『秦野市史民俗調査報告書2 秦野地方のことば』（1982）、『神奈川県民俗調査報告 分類神奈川県方言辞典（Ⅰ～Ⅳ）』（2003-2007）について、簡略に説明する。

○秦野市『秦野市史民俗調査報告書2 秦野地方のことば』（1982）

秦野市の方言に関する調査を行っており、秦野地方の気象・天候に関する諺、秦野地方の方言の消滅度調査、および、秦野市の方言語彙一覧を載せている。「秦野地方で使われることば一覧表」収録語は、そこに具体的収集方法が明記されていないが、昭和56-57年当時の資料、および秦野ことばの実態調査の過程において、老人会や地区会、市内在住者への聞き込み調査等をもとに収集されたものと推定される。

○神奈川県立歴史博物館『神奈川県民俗調査報告21～24 分類神奈川県方言辞典（Ⅰ～Ⅳ）』（2003-2007）

これは、昭和53年時点までの現地調査および神奈川県の方言に関する既刊、未刊の文献資料、民俗調査報告書より抽出した語彙を採録している。現地調査は、「神奈川県方言辞典編纂事業」として昭和49年から昭和53年までの5ヶ年に亘って行われた委託調査によるものである。全4冊、約14000の語彙を収録している。計画からⅣ集刊行まで30年以上を要した労作である。

2.3 被調査者

今回のサンプル調査では、質問項目が多く被調査者への負担が大きいことから、対象としては執筆者の親族に協力を仰いだ。以下がその年齢、性別、出身である。

祖母（父方）：1935（昭和10）年生、84歳 秦野市居住 中井町出身——本稿では以下、「祖母（84）」と略記する、以下同。

母：1965（昭和40）年生、54歳 秦野市居住 足柄上郡大井町出身——「母」

妹：2002（平成15）年生、17歳 秦野市居住 同左出身（本稿執筆者の妹）——「妹」

祖母（母方）：1936（昭和11）年生、82歳 足柄上郡大井町居住。静岡県田方郡大

仁町（現在の伊豆の国市＝伊豆半島の北部）出身。1961（昭和36）年に現住の神奈川県足柄上郡大井町に嫁入りするまでの25年間を静岡県で過ごす。

——「祖母（82）」

伯父（母方）：1963（昭和38）年生、56歳 足柄上郡大井町居住 同左出身——「伯父」

伯母（母方）：1963（昭和38）年生、56歳 足柄上郡大井町居住 秦野市出身——「伯母」

3 秦野市方言の調査報告——80歳代・50歳代話者の使用実態報告——

本節では、1語形ごと、次のような内容で全18語について箇条書き的に記述していく。

○語形（意味）

被調査者の回答結果（意味、語形）、他の上記の神奈川県方言資料の記述との比較（母方祖母が静岡県出身であるので、静岡県方言資料との比較を含む）、『日本国語大辞典』の「方言欄」、『日本方言大辞典』など全国方言の情報との比較。

○報告語形一覧（合計18語）

①カタチンバ、②サクイヒト、③ブショツテエ、④シャツケエ、⑤セチガル、⑥ヒツチャバク、⑦ヨッピイテ、⑧ジョウグチ、⑨オコンジョ、⑩ウツチャラカス、⑪エエカラカン、⑫スペタラ、⑬ヒョッコ、⑭アトビッシヤリ、⑮テンツケ、⑯イヤシンボウ、⑰オタラ、⑱ペケ

①カタチンバ（ふぞろい）

祖母（82）が使用すると回答。伯父が以前は使用したと回答、伯母が「聞いたことがある」と回答した。伯父・伯母の認知は祖母（82）の影響が考えられる。静岡県出身の祖母（82）が「カタチンバ」を静岡県と神奈川県のとどちらで認識したのかを探るため、『図説静岡県方言辞典』（以下、『図説静岡』）を用いて静岡県での分布の確認を行った。『図説静岡』では、現在の浜松市西区、湖西市での分布が確認できたが、『神奈川－報告』では記載が見られなかった。

『日国』の方言欄の「かたーちんば【片跛】」では次のようにある。

「かたーちんば【片跛】」『日国』方言欄

- (1) 一対のものがふぞろいなこと。また、そのさま。《かたちん》兵庫県加古郡664淡路島671徳島県810《かたちんぐり》和歌山県新宮702《かたつが》宮城県石巻120
- (2) 片足跳び。《かたちんば》神奈川県鎌倉市・足柄下郡054三重県志摩郡054高知県安芸郡・幡多郡864《かたちん》高知市864《かたちんこ》島根県隠岐島724

(3) 鬼ごっこ。《かたちんば》高知県幡多郡 864

(4) 片方。《かんちん》熊本県玉名郡 926

神奈川県は「(2) 片足跳び。」の意で「かたちんば」が確認できたが、「ふぞろい」の意では神奈川県も静岡県も確認できなかった。祖母(82)はアンケートに回答する中で、「靴下などが左右揃っていないこと」などの意味で昔はよく言ったと話していた。『日国』では「カタチンバ」は洒落本・遊子方言〔1770〕発「草履を片ちんばにはき、かけだしそうにする」が初出例としてあり、全国的な語としての認識が高かったことが伺え、そのために祖母(82)が認識していた可能性が考えられる。

②サクイヒト（気持ちのよい人）

両祖母、母が使用すると回答、伯母が「聞いたことがある」と回答している。使用すると回答した3人は「〇〇さんはサクイねえ。」といった形で使っていたという。このように見ると、「サクイヒト」という名詞ではなく、「サクイ」という形容詞で使用していることが分かる。『神奈川－報告』では「サクイヒト」が見当たらず、「気軽で愛想がよい。遠慮やわだかまりがない。淡泊だ。」の意で形容詞の「サクイ」が相模原市、伊勢原市、平塚市、箱根町、横浜市緑区、横須賀市での分布が見られた。

『日国』では「さくい」の見出しが確認できた。「(1) 性質が淡泊である。気さくである。あっさりしている。」の意で初出例は「日葡辞書〔1603～04〕「Sacui（サクイ）ヒト〈訳〉快活でてきぱきした人」であり、ここにおいて「サクイヒト」の記述を確認できた。用例が17世紀ごろにはあり、全国的に見られた語であることが伺える。なお、方言欄では「さくい」で以下の記載が確認できた。「サクイヒト」という語形では見られず、「気持ちのよい人」の意味も確認できなかった。さらに『神奈川－報告』で見られた「サクイ」の形で「気軽で愛想がよい。遠慮やわだかまりがない。淡泊だ。」の意も確認できなかった。また、『日国』方言欄におけるどの意味においても神奈川県の見られなかった。ここに神奈川県を追加しておきたい。

静岡県は「(2) 粘りけがなくもろい。折れたり砕けたりしやすい。」「(3) たやすい。容易だ。」の意が確認できたが、アンケートで尋ねた意味は確認できなかった。

「さくい」『日国』方言欄

(1) 気さくだ。《さくい》山形県米沢市 151

(2) 粘りけがなくもろい。折れたり砕けたりしやすい。《さくい》秋田県仙北郡 063【多数略】《さこい》山形県 139《ざくい》愛媛県 840《さくさん》沖縄県首里 993《さくない》鳥根県石見 725 愛媛県 845846《ざくない》愛媛県 840

(3) たやすい。容易だ。《さくい》静岡県 520

(4) 穴などにものを入れるのに、緩い。《さくい》愛媛県 840

(5) 如才ない。なれなれしい。《さくい》山梨県 461 高知県土佐郡 866

- (6) 賢い。《さこえ》山形県南村山郡 139
 (7) ものごとを引き受けるのに軽率だ。《さくい》島根県大田市・仁多郡 725 《さくう》島根県八束郡・仁多郡 725
 (8) 鈍感だ。おめでたい。《さあくい》岡山県苫田郡 749

③ブショツテエ（不潔）

妹以外の全員が使用すると回答。その中でも、違う言い方として「ブショツタイ」や「ビショツテエ」という形を使用するという回答もあり、語尾の形に若干の差が見られた。なかでも「ブショツタイ」を回答した人は、「ブショツテエ」よりも「ブショツタイ」の方が使うと話していた。神奈川県においても、関東地方に見られる二重母音の長音化が特徴としてある、と先行研究では述べられていたが、言いきりの形での認識が定着しているように感じられた。『神奈川－報告』によると、「無精なこと。」の意で「ブショ－ター」の記載があり、伊勢原市と愛川町のみであった。

『日国』方言欄では「ぶしょーない【不精一】」で以下の記載が確認できた。「ブショツテエ」の形は見られなかったが、被調査者が回答した「ブショツタイ」の形では静岡県志太郡、島田市が確認できた。しかし、神奈川県の記載はなく、その他の語形でも神奈川県の記載は見られなかった。ここに神奈川県を追加しておきたい。

「ぶしょーない【不精一】」『日国』方言欄

- (1) だらしない。不精である。また、不潔である。《ぶしょない》香川県伊吹島 829 《びしょない》岩手県気仙郡 100 山形県「いつもここはびしょない所だ」139 《びしょうない》群馬県多野郡 230 埼玉県秩父郡 251 《びしょがない》宮城県登米郡 115 玉造郡 116 《ぶしょったい》静岡県志太郡 535 島田市 536 《びしょたい》山形県 139 《びしょったい》長野県諏訪 481 下伊那郡 492 《びしょうったい》静岡県 520 《ぶしったない》栃木県 198 《びしょったない》群馬県 040226242 埼玉県川越 255 長野県長野市・上水内郡 054 《びしょうったない》群馬県群馬郡 224 《ぶしよったらしい・しよったらしい》東京都三宅島 333
 (2) 卑猥（ひわい）である。《ぶしよったらしい・しよったらしい》東京都三宅島 333

④シャツケエ（つめたい）

伯父、伯母は「聞いたことがある」と回答した。母、祖母（84）が「シャツコイ」、祖母（82）が「ヒャツコイ」の形で使用すると回答した。母、祖母（84）の回答に見られた「シャツコイ」の語形は、長音から言いきりの形への言い換えであると考えられる。また、祖母（82）の回答に見られた「ヒャツコイ」の語形を『図説静岡』で見たとこ、伊豆の国市での分布はなかったが、静岡県に広く分布する語形であることが確認できた。なお、『神奈川－報告』では平塚市、横須賀市のみ分布が確認できた。

また、『日国』方言欄では「ひやっ-こ・い【冷一】」で以下の記述が確認できた。東日本を中心に広く分布を確認できる。また、『日国』の発音欄では地域差が見られ、「シャッケー」は「岩手・埼玉方言・千葉・神奈川」、「シャッコイ」は「青森・岩手・秋田鹿角・山形・埼玉方言・千葉・神奈川」、その他に神奈川県に見られた形として「ヒャッケー」が「埼玉方言・神奈川」で確認できた。一方で「ヒャッコイ」は〔北海道・埼玉方言・千葉〕の記載で静岡県・神奈川県の記載は見られなかった。

「ひやっ-こ・い【冷一】」『日国』方言欄

- (1) 冷たい。《ひやっけ》福島県福島市 158 大沼郡 175 千葉県夷隅郡 040 《ひやっこけ》東京都八丈島 343 《さっこい》青森県 073 岩手県九戸郡 088 《はっこい》庄内市 060 岩手県 091093096 宮城県登米郡 115 玉造郡 116 秋田県 130 山形県西置賜郡・庄内 139 新潟県 366382 《はっこ》山形県東田川郡・西田川郡 139 《ばっくい》静岡県 520 《ししゃっこい》山形県東村山郡 139
- (2) 寒い。《ひやっこい》愛知県南設楽郡 554 《しゃっこい》長野県下伊那郡 054 《さっけ》秋田県山本郡 130
- (3) 湿っぽい。《しゃっこい》山形県 139 《すしゃっばい》山形県北村山郡 144
- (4) 冷やかである。冷酷である。《ひやっこい》福島県若松市 171

⑤セチガル（ねだる。欲しがる。）

祖母（82）が使用すると回答。母、祖母（84）が「セツック」の形で以前は使用したと回答した。『神奈川-報告』では「セチガル」は「ねだる」の意で記載があり、分布は松田町、湯河原町、鎌倉市、横浜市緑区で見られた。松田町や湯河原町で見られたことから、足柄独立型のように静岡県から入ってきた可能性も考えられたが、『図説静岡』では県の中央部分での分布であった。祖母（82）が「セチガル」をどこで認識したかは特定できない。また、「セツック」の形は、山北町で見られた。山北町は秦野市に接しており、その周辺で分布し、認識されていた可能性が考えられる。

『日国』では「せつく【責付】」（しきりにうながす。しつこく催促する。せきたてる。また、うるさくねだる。せつく。）の変化した語として「せつつ・く【責付】」の記述が見られ、初出は雑俳・柳多留-四〔1769〕「土用干せつつく内が娘なり」であったことから、全国的に見られる語であることが伺える。以下の『日国』方言欄の記述からも伺えるように、「セチガル」という形は確認することができなかった。また、「セツック」の形で「ねだる。欲しがる。」という意は見られなかった。ここに「ねだる。欲しがる。」の意で神奈川県を追加しておきたい。

「せつつ・く【責付】」『日国』方言欄

- (1) うるさくつきまとう。《せつつく》長崎市 906
- (2) あくせくする。《せつつく》長野県佐久 493

(3) 急ぐ。焦る。《せつつく》山梨県

⑥ヒッチャバク（紙などをやぶく。）

祖母（82）が使用すると回答。また、母、祖母（84）が「ヒッチギル」の形、伯父が「ヒツツァバク」の形で使用すると回答した。『神奈川－報告』では「破る」の意味で、紙という限定がかからない形での意味の記載があり、相模原市、愛川町での分布が見られた。

『日国』では母、祖母（84）の回答した「ひっーちぎ・る【引一】」で見出しが確認できた。初出例を杜詩続翠抄〔1439 頃〕九「此の者を本と言とも復ひちちきつて別に云を」で確認できたことから、かなり古くからあり、「ヒッチギル」は全国的に見られる語であることが伺える。以下は方言欄の記述であるが、「ヒッチャバク」の語形を確認できなかった。「THE 函南遺産」というサイトでは、静岡県函南町の俚言として「ヒツツァバク（引き破る）」が確認できた。アンケート調査結果も踏まえ、神奈川県、静岡県近辺で「破る」の意で「ヒッチャバク」、及びそれに類似する形が分布していた可能性が高い。

「ひっーちぎ・る【引一】」『日国』方言欄

- (1) もぎ取る。切り離す。《ひちちぎい》鹿児島県 963
- (2) つねる。《ひちちぎる》岩手県気仙郡 102

⑦ヨッピーテ（一晩中）

母が「ヨッピーデ」、祖母（82）が「ヨッピーテ」の形で使用する、伯父が以前は使用した、伯母が「聞いたことがある」と回答した。使用すると回答した2人はいずれも語中にある長音を伴わない形を使用していることがわかった。『神奈川－報告』によると、「ヨッピーテ」の分布は相模原市、清川村、厚木市、小田原市、三浦市。また、「ヨッピーテ」の形の記載もあり、分布は全県的であった。

『日国』では「よっーびて【夜一夜】」の見出しを確認できた。「一晩を通してずっと。夜どおし。夜もすがら。よっびとよ。よっびてえ。」の意で初出例が雑俎・湯だらひ〔1706〕「蚊屋出さにゃ・よっひて住吉おどり」とあることから、全国的に見られた語であることが考えられる。以下、方言欄の記述である。神奈川県の記載を確認できず、「ヨッピーテ」の語形も見られなかった。「(1) 一晩中。終夜。夜どおし。」の意の部分で神奈川県を追加しておきたい。

「よっーびて【夜一夜】」『日国』方言欄

- (1) 一晩中。終夜。夜どおし。《よっびて》山形県米沢市 151 《よっべてえ》鳥根県美濃郡・益田市 725 《よっばて》鳥根県江津市 725 広島県江田島 771 《よっばてえ》鳥根県石見 725 岡山県 042 上房郡 755 広島県 054 比婆郡 774 山口県 054 阿

武郡 795 《よっぼでえ》広島県世羅郡 777 高田郡 779

- (2) 夜を日に継いで。《よびつて》秋田県仙北郡「よびつて働いた」130
- (3) 終日。《よびつて》長野県上田 475

⑧ジョウグチ（庭の入り口）

両祖母、母、伯父が使用すると回答。妹、伯母が「聞いたことがある」と回答していた。妹が認識していることから、家庭内での使用が現在でもよくあることが伺える。また、使用すると回答した人のうち、両祖母と母に対し、「ジョウグチ」の「ジョウ」が何を指すかを尋ねたところ、敷地（庭）の入り口、敷地の入り口に門があればその門を指すという回答を得た。『神奈川－報告』によると、「玄関。家の入り口。道から屋敷へ入るところをいう場合もある。」の意で記載があり、相模原市、山北町、小田原市、愛川町、厚木市、横浜市瀬谷区・鶴見区での分布が見られた。

『日国』の方言欄では「じょう－ぐち [ヂャウ・...] 【錠口】」で以下の記載が見られた。神奈川県は「(1) 屋敷の出入り口。また、その付近。門口。門先。」で確認できる。なお、アンケートの質問で尋ねた「(4) 庭の入り口。」は東京大島の記載が確認できた。

「じょう－ぐち [ヂャウ・...] 【錠口】」『日国』方言欄

- (1) 屋敷の出入り口。また、その付近。門口。門先。《じょうぐち》神奈川県 054 【多数略】
- (2) 土間の入り口。《じょうぐち》愛知県日間賀島 025
- (3) 玄関。上がり口。《じょうぐち》山形県最上 062 山梨県
- (4) 庭の入り口。《じょうぐち》東京都大島 326
- (5) 木戸。木戸口。《じょうぐち》静岡県安倍郡 535 《じょのおじ》岩手県九戸郡 088
- (6) 高倉の入り口。《じょうぐち》鹿児島県沖永良部島・奄美大島 985
- (7) 道路から家の入り口までの道。《じょうぐち》福島県相馬郡 156 埼玉県入間郡 257 東京都八王子 311 神奈川県津久井郡 316 《じょうのくち》岩手県気仙郡 102
- (8) 門から玄関までの通路。《じょうぐち》宮城県仙台市 125 《じょうぼお》房総 068 千葉県印旛郡 272 《ちょうぼお》茨城県 062 《じょうぼ》千葉県長生郡 286
- (9) 門前の通り。《じょうぼ》千葉県 062261
- (10) 門。《じょうぐち》鹿児島県奄美大島・加計呂麻島 975 《じょうぐちい・じょんくちい》鹿児島県喜界島 983 《ぞうぐち》鹿児島県奄美大島 975 《じょうぼ》千葉県上総 001 《どうんうっていい》沖縄県与那国島 975996

⑨オコンジョ（いじわる）

母、祖母 (82) が使用すると回答、伯父は以前使用した、伯母は「聞いたことがある」

と回答した。『神奈川－報告』においては「ひねくれていること。へそ曲がり。根性が曲がっていること。」の意で記載があり、横浜市緑区のみ分布を示している。母や伯父は、祖母(82)の影響が強いことが考えられる。

『日国』の方言欄では「お－こんじょう【御根性】」で以下の記述が見られた。「(1) 意地の悪い者。意地悪。」「(2) 強情者。」の2つの意が確認できるが、いずれも神奈川県の記事はない。ここに神奈川県を追加しておきたい。

「お－こんじょう【御根性】」『日国』方言欄

- (1) 意地の悪い者。意地悪。《おこんじょう》栃木県足利市・下都賀郡 198 群馬県勢多郡 236 佐波郡 243 埼玉県秩父郡 251 《おこんじょ》群馬県 241242245 長野県佐久 493
- (2) 強情者。《おこんじょう》栃木県足利市・下都賀郡 198

⑩ウッチャラカス（諦めて放棄する。面倒がって投げやりにする）

祖母(82)が使用すると回答。伯父、伯母が「聞いたことがある」と回答した。伯父・伯母の回答は祖母(82)の影響が考えられる。『図説静岡』では記載が見られなかった。『神奈川－報告』によると、「投げやりにする。」の意で、相模原市、伊勢原市、横須賀市での分布が見られた。

『日国』では「うっちゃら－か・す【打遣一】」の見出しを確認できた。「かまわないでほうっておく。ほったらかす。」の意で、初出例は人情本・春秋二季種〔1844～61頃〕二・一〇段「何もうっちゃらかして行なさい」を確認できた。方言欄では以下の記載が確認できた。神奈川県は「(1) 打ち捨てておく。ほうっておく。放任する。」の意で確認できた。ここに「投げやりにする」の意を追加しておきたい。

「うっちゃら－か・す【打遣一】」『日国』方言欄

- (1) 打ち捨てておく。ほうっておく。放任する。《うっちゃらかす》東京都 312 神奈川県 314 山梨県 453 島根県邑智郡・隠岐島 725 熊本県下益城郡 930 《うちゃらかす》長野県佐久 493 《うっちゃらげす》茨城県稲敷郡 193 《うったらかす》和歌山県 690 《うっちええらかしゅん・うってえらかしゅん・うってえらきゅん》沖縄県首里 993
- (2) 捨てる。《うっちゃらかす》岐阜県稲葉郡 498

⑪エエカラカン（いいかげんに事をする）

両祖母、母、伯母が使用する、伯父が「聞いたことがある」と回答した。『神奈川－報告』では「おおよそに仕事をするさま。」の意で、相模原市、愛川町、伊勢原市での分布が見られた。

『日本方言大辞典』では「よいかん」の項目で「(7) 無責任。投げやり。でたらめ。

また、そのさま。いいかげん。」の意が確認でき、「《えーからかん》栃木県 198 / 山梨県 / 静岡県小笠郡「ええからかんの勉強で困る」537」が見られた。

『日国』の同じく「よいかん」には、「好い加減。ほどほど。*三体詩素隠抄 [1622] 二・三「よいかんに、作りあわせたる句どもぞ」とあり、方言欄に多くの意味があるが意味が近い (4) には次のようにある。

- (4) 無責任。投げやり。でたらめ。また、そのさま。いいかげん。《よいかん》**静岡県榛原郡「よいかんなもんだ (ぞんざいにもほどがある)」541**《いいからかん》**栃木県 198**《いいくれ》**宮城県仙台市 121**《いいくれえ》**長崎県壱岐島 915**《いかげ》**和歌山市「いかげなもんやな」691**《いっかん》**長野県東筑摩郡 480**《いっくらい》**岩手県気仙郡「いっくれあなごどかだれ (でたらめ言うな)」100**《いやんべ》**宮城県仙台市「いやんべな仕事しさんすな、まてーにしさえ」121**《ええかもん》**静岡県志太郡 535**《ええからかん》**栃木県 198** **山梨県静岡県小笠郡「ええからかんの勉強で困る」537**《ええからげ》**島根県美濃郡・益田市 725**《ええからげん》**静岡県志太郡 535**《ええからごお》**島根県美濃郡・益田市 725**《ええからもん》**静岡県志太郡 535**《ええころ》**島根県石見「えーころを言うな」725**《ええころかげん》**山形県北村山郡 139** **愛知県知多郡 570** **島根県 725**《ええころはちべえ》**島根県石見「あいつはえーころはちべーをきめるけー信用がならん」725** **広島県高田郡 779** **山口県 803** **大島 801**《えがべかんじょ・えがべかんじょえ》**山形県西村山郡 139**《えくらい》**宮城県石巻「えくれあなごとばり語って人をだます」120**《えくらえ》**山形県 139**《えくらかげん》**青森県津軽 075**《えくりてげ》**山形県西村山郡・西田川郡 139**《えこらんべあ》**秋田県平鹿郡「えこらんべあに書いてやれ」130**《えっからかげん》**青森県津軽 075**《えっからかん》**長野県東筑摩郡 480** **西筑摩郡 491**《えっかん》**長野県東筑摩郡 480**《えっくらたげ》**山形県最上・庄内 138**《えっころかげん》**山形県 139**《よいかからかん・よいからはちべえ》**静岡県榛原郡 541**《よかくれえ・よかろおこおべ》**長崎県壱岐島 915**

同方言辞典の同「よいかん」での神奈川県は「ええけん」の語形で、「(2) おおよそ。たいてい。だいたい。～《えんけん》～神奈川県藤沢市 319」があるだけであった。

祖母 (82) (静岡伊豆) の使用は静岡方言としての習得の可能性があるが、祖母 (84)、母も使用するので、ここに神奈川県を追加しておきたい。

⑫ スベタラ (やたらに。何でも)

祖母 (82) が「聞いたことがある」と回答し、その他全員が「聞かない」と回答した。『神奈川－報告』では2つの意が掲載されており、サンプル調査の質問項目で尋ねた「① やたらに、むやみに」の意と「② あまねく広く」の意が見られた。①では相模原市、伊勢原市、横浜市緑区で、②では平塚市のみで分布が見られた。

『日国』方言欄では「すべたら」の見出しで以下の記述が見られた。「むやみに」の意味では神奈川県語形は「すべったら」とあり、アンケート調査と差異が見られた。ここに「スベタラ」の語形を追加したい。

「すべたら」『日国』方言欄

- (1) あまねく。一面に。いっぱい。残らず。《すべたら》神奈川県津久井郡 317 中郡 320 山梨県南巨摩郡「庭中すべたら水になった」465 《ずべたら》茨城県久慈郡 188
- (2) むやみに。めったに。《すべったら》神奈川県愛甲郡「あいつはすべたらなにへでも顔を出す」314 《ずべたら・すべに》東京都大島 326 《すべえに》栃木県上都賀郡・下都賀郡 198

⑬ヒョッコ (いびつ)

両祖母、母、伯母が使用すると回答、伯父が以前は使用したと回答した。『神奈川－報告』では、「いびつ。形がゆがむさま。」の意で、相模川以西を中心に県内の広範囲に分布が広がっており、秦野市及び隣接する市町村のすべてに分布していたことがわかった。

『日国』では該当する意味の語形は「ひよっこ」「ひよっこ」「しょっこ」などを探しても確認できなかったが、『日本方言大辞典』では「ひよっこ」の見出しで以下の記述が確認できた。「ヒョッコ」が神奈川県のみ分布していたことが分かる。

「ひよっこ」『日本方言大辞典』

- (1) ゆがんでいること。いびつ。
神奈川県南部 046
《ひよっこ》神奈川県小田原・足柄上郡 054
《しょっこ》神奈川県中郡 320 / 静岡県「この団子はしょっこになった」520 / 田方郡 530
- (2) →ひき【墓】

また、『日国』のジャパンナレッジでの本文検索を利用して意味から探したところ、「びっちょこ」の見出しのもとに、以下の記述があり、神奈川県での「びつつく」「びつつう」、静岡県の「びっちょこ」「ひっちょく」は見つけることができた。

「びっちょこ」『日国』

ゆがんでいること。いびつなさま。《びっちょく》とも。静岡県「箱を落してびっちょこにした」520 《びっちょお》山梨県 453 《ひっちょく》静岡県田方郡 530 《びつつく》神奈川県北部 046 《びつつう》神奈川県津久井郡 316 静岡県 520 安倍郡 540

⑭アトビツシャリ（後ろ向きで下がる）

祖母（82）のみが使用、母と祖母（84）は違う言い方で「アトズサリ」を使用する、伯父・伯母は「聞いたことがない」と回答した。『神奈川－報告』においても、「①あとずさり。②尻込みすること。」の意で記載があり、伊勢原市のみ分布となっている。静岡県出身の祖母（82）が使用するという事は静岡からの流入も考えられたが、静岡県からの影響が強いとされる足柄方面での分布もない。伊勢原市は秦野市に隣接するために、過去に一部秦野市民が使用し、「秦野地方で使われることば一覧」に掲載された可能性が高い。

『日国』では「あとーびつしゃり【後一】」の見出しを確認できた。「(1)（「あとびさり」の変化した語）「あとずさり（後退）(1)」に同じ。」の意で初出例は今昔較〔1874〕〈岡三慶〉下「船制も千石限りと、厳に限を立られしより、船制復古（アトビツ）しゃりして、爾後二百余年間は、造船の法一步も進まざりし也」に見られ、全国的に見られる語であることが伺える。『日本方言大辞典』では「あとじょり【後一】」の項目で「(1) 前を向いたままで後ろに下がること。後ずさり。」の意があり、「《あとびつしゃり》東京都312／長野県佐久493」が見られた。神奈川県は「《あとびつつあり》神奈川県中郡320」が見られた。「アトビツシャリ」に神奈川県を追加しておきたい。

⑮テンツケ（最初から）

祖母（82）が使用する、その他全員が「聞かない」と回答した。祖母（82）は、この質問項目に対して、「テンツケにやればいいのに。」といった例文を言うなど、現在においても使用している可能性が高いという印象を受けた。『図説静岡』では分布が見られず、「はじめ」の意で類似した形の「テンズケ」が現在の静岡市葵区に分布していることが確認できた。『神奈川－報告』では「最初から。いきなり」の意で記載があり、伊勢原市のみ分布であった。

『日国』方言欄では「てんつけ」の見出しで以下の記載が確認できた。静岡県の記載はどこにもなく、神奈川県は「てんづけ」の形で見られたが、「テンツケ」での記載はなかった。

「てんつけ」『日国』方言欄

いきなり。最初から。《てんつけ》茨城県猿島郡188 真壁郡191 栃木県「てんつけ そんなことするな」198 埼玉県北葛飾郡「てんつけきかかれてもわからぬー」258 岐阜県恵那郡498 岡山県苫田郡749 高知県長岡郡「てんつけごひゃくえんいった」864 《てんづけ》栃木県198 東京都大島326 神奈川県愛甲郡314 新潟県西蒲原郡371 中頸城郡「誰でもてんづけ大将にはなれない」383 長野県468477480 《てんづき》長野県上水内郡・長野市054

⑩イヤシンボウ（食いしん坊）

祖母（82）が使用する、伯父は「人のものを欲しがる」という違う意味で使用すると回答している。祖母（84）が以前は使用した、母が「聞いたことがある」と回答している。母と伯父は祖母（82）の影響から「イヤシンボウ」という語彙の認識をしていた可能性が高い。『神奈川－報告』では足柄上郡松田町・大井町を除いた足柄全域、現在の相模原市緑区、伊勢原市、横浜市緑区が挙げられている。秦野市においても三廻部での分布が示されていた。

『日国』では「くいしんぼう [くひしんバウ] 【食坊】」の項目で「むやみにものを食べたがるさま。また、その人。食い意地の張った人。くいしんぼ。いやしんぼう。」とあり、また「いやしんぼ」には「（「いやしんぼう」とも）「いやしほ【賤坊】」に同じ。」とあって、その「いやしほ」には「けちんぼう、食いしんぼうのような、意地のきたない人。いやしんぼ。」の意があり、用例は17世紀以降とあることから、「イヤシンボウ」は「いやしほ」が語源で、全国的な語であったと考えられる。

⑰オタラ（間抜けな人）

伯母が使用すると回答、母、祖母（84）、伯父が「頭の悪い」という意で使用すると回答した。「オタラ」は「頭の悪い」の意で、現在も使用されていることがわかる。『神奈川－報告』では「オタラ」（間抜けな人）の記載はなく、「オタラケ」（愚か者）の形での記載を確認した。この分布は真鶴町のみであった。

『日国』では「おたくら」の項目で以下の記載が確認できた。「(1) 愚か者。ばか者。」の意で神奈川県津久井郡があり、「おたあくら」の形で神奈川県中郡、「おたらけ」の形は静岡県田方郡、熊本県で確認できた。なお、『日本方言大辞典』で「オタラ」を引くと、「意気地なし」の意で神奈川県中郡の記載を確認できた。

「おたくら」『日国』方言欄

- (1) 愚か者。ばか者。《おたくら》神奈川県津久井郡 317 長野県上水内郡 054 《おたあくら》神奈川県中郡 320 《おたらけ》静岡県田方郡 521 熊本県 919
- (2) こっけいな人。《おたくら》長野県更級郡 054
- (3) こうかつな人。《おたくら》富山県 389 高岡市 392
- (4) くだらないこと。根拠のないこと。また、冗談。むだ話。《おたくら》信州河
中島 025 群馬県勢多郡 236 新潟県 380382 「おたくらたく（むだ話をする）」
383 長野県 468480488 《おたらく》長野県 481488 《おたたら》静岡県浜松市 521
- (5) 仕事などを怠けること。《おたらく》愛知県名古屋市「ラヂオをかけて耳を貸していることはよいが、手の方がおたらくでは困るなあ」562
- (6) 壊れて使えないこと。《おたくら》富山市近在「この玩具がおたくらになった」

(7) わざと眠ったふりをすること。ためき寝入り。《おたくら》静岡県 520

⑩ベケ（駄目ということ）

母、祖母（84）が使用する、妹、伯母が「聞いたことがある」、伯父が違う意味で、「バツ」の意味で使用すると回答した。使用すると回答した母や祖母（84）の日常の中での使用が高い結果、妹も認識していたという可能性が考えられる。『神奈川－報告』において、「ベケ」の記載は見当たらなかった。

『日国』では「ベケ」の見出しが確認できた。「(1) (形動) 拒否、拒絶するさまにいう語。だめ。いけない。気に入らぬ。また、役に立たないこと。間の抜けていること。また、そのさま。」の意で初出例が歌舞伎・八幡祭小望月脈（縮屋新助）〔1860〕四幕「『それでは、情人（いろ）だといった新助は』『少しべけさね』」に見られた。全国的に見られる語と考えられる。方言欄では以下の記載が確認できた。「(1) 拒絶するさまにいう語。だめ。いけない。」の意で神奈川県を追加しておきたい。

「ベケ」『日国』方言欄

- (1) 拒絶するさまにいう語。だめ。いけない。《ベケ》山形市周辺 139 茨城県稲敷郡 193 群馬県勢多郡「あいつはべけだ」236 佐波郡 242 千葉県印旛郡「約束がべけになった」274 新潟県佐渡「べけくう（断られる）」352 福井県敦賀郡 443 岐阜市 498 静岡県志太郡 535 和歌山県 690 岡山県児島郡 763 山口県 803
- (2) 順番の最後。びり。《ベケ》栃木県 198 島根県簸川郡 724 《ぼけ》栃木県足利市 198

4 考察・まとめ

以上、神奈川県秦野市の方言の2019年における使用実態を、80歳代、50歳代の秦野市方言話者の聞き取り調査により、20語形ほどを記述的に報告してみた。

このように見ていくと、神奈川県方言語彙が、『日本国語大辞典』や『日本方言大辞典』で埋もれてしまっているものがまだあることが分かる。また、アンケート調査で得られた語彙の意味と、『神奈川県民俗調査報告』における語彙の意味、また、それらと『日本国語大辞典』や『日本方言大辞典』とで神奈川県における語彙の意味に差が出るものがあることを、改めて確認することができた。このことから、『神奈川県民俗調査報告』、および『日本国語大辞典』や『日本方言大辞典』では把握しきれていない伝統方言語彙が、まだ神奈川県に残されている可能性が浮かび上がってきた。神奈川県方言の語彙の意味・用法をさらに詳しく解明していくうえでも、今後、『神奈川県民俗調査報告』で確認できる全語彙において、全国との比較を行う必要がある。

【付記】 本稿は、2019年度に学習院大学に提出した卒業論文「神奈川県方言の研究」（安

部清哉教授指導)をもとに、その一部、第3章を改めてまとめ直したものである。

【引用・参考文献】

- 日野資純 (1984)「神奈川県の方言」飯豊毅一他編『講座方言学 5 関東地方の方言』国書刊行会
- 田中ゆかり [他] 編 (2015)『日本のことばシリーズ 14 神奈川県のことば』明治書院
- 神奈川県立歴史博物館編 (2003)『神奈川県民俗調査報告 21 分類神奈川県方言辞典 (Ⅰ) —自然・動物・植物—』神奈川県立歴史博物館
- 神奈川県立歴史博物館編 (2005)『神奈川県民俗調査報告 22 分類神奈川県方言辞典 (Ⅱ) —身体と健康・服飾・飲食・住居—』神奈川県立歴史博物館
- 神奈川県立歴史博物館編 (2006)『神奈川県民俗調査報告 23 分類神奈川県方言辞典 (Ⅲ) —社会生活・経済生活・人の一生・儀礼と信仰—』神奈川県立歴史博物館
- 神奈川県立歴史博物館編 (2007)『神奈川県民俗調査報告 24 分類神奈川県方言辞典 (Ⅳ) —娯楽、行動・性情、時間・空間、その他—』神奈川県立歴史博物館
- 大橋勝男 (1976)『関東地方域方言事象分布地図 第3巻語彙篇』桜楓社
- 佐藤亮一 (2009)『都道府県別全国方言辞典』三省堂
- 秦野市管理部市史編さん室編、岩田達治編著 (1982)『秦野市史民俗調査報告 2 秦野地方のことば』秦野市
- 静岡県方言研究会、静岡大学方言研究会共編 (1987)『図説静岡県方言辞典』吉見書店
- 平山輝男 [ほか] 編 (2002)『日本のことばシリーズ 22 静岡県のことば』明治書院
- 『日本国語大辞典』第二版 (2000—2002) 小学館
- 『日本方言大辞典』(1989) 小学館
- NHK 放送文化研究所編 (1997)『現代の県民気質—全国県民意識調査—』日本放送出版協会
- 「THE 函南遺産」、確認日 2020 年 3 月 4 日 <http://kannami13.sakura.ne.jp/>
- 「神奈川県立歴史博物館」確認日 2020 年 3 月 11 日 <http://ch.kanagawa-museum.jp/publications/catalog>